

第11期(2009年3月期) 決算のご説明

フューチャーベンチャーキャピタル株式会社
(大証ヘラクレス, 証券コード8462)

本資料は情報の提供のみを目的としており、当社が発行する有価証券及び当社が管理運営するファンドへの投資勧誘を目的とするものではありません。また、本資料に掲載されている事項は資料作成時点において入手した情報に基づいたものですが、その情報の正確性及び完全性を保証または約束するものではありません。今後、予告なしに変更することがありますのでご了承ください。

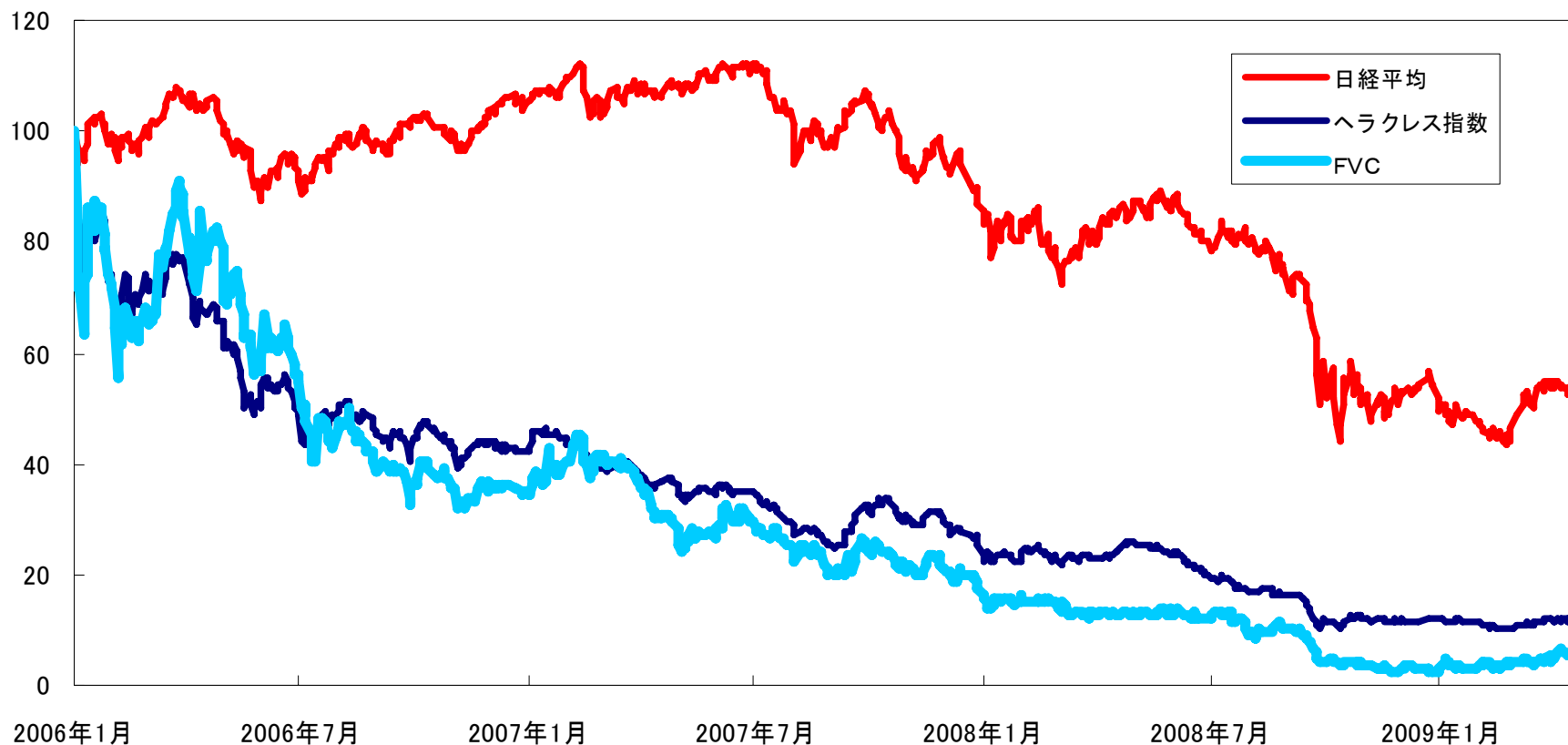
本資料での数値は、特に指定がない限りすべて2009年3月末現在のものです。

1.	経営環境	...	3
2.	FVC創業10年の歩み	...	5
3.	第11期決算概要(個別)	...	7
4.	投資活動の状況	...	11
5.	今後の方針	...	14

**【参考】 連結決算
会社概要**

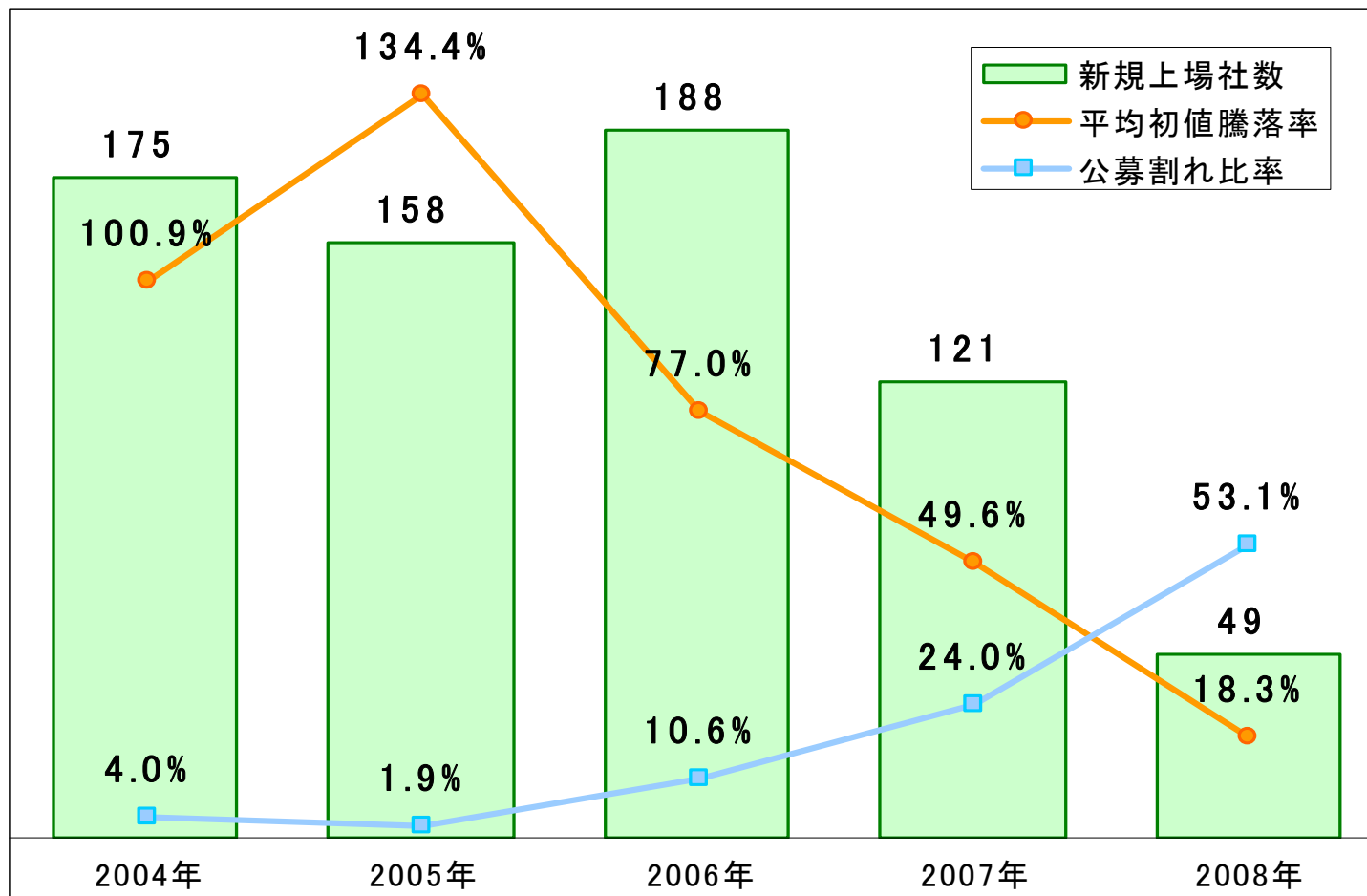
1.1.株式市場の状況

新興市場はライブドアショック以来株価が低迷 リーマンショックで追い討ち



1.2.新規上場市場の状況

新規上場社数は2006年の1/4水準に 初値騰落率は2005年以降低下の一途、公募割れが半数超
 ⇒投資先企業の上場による収益確保が困難な経営環境に



※初値騰落率 : $\{ (\text{初値} - \text{公募価格}) / \text{公募価格} \} \times 100 (\%)$

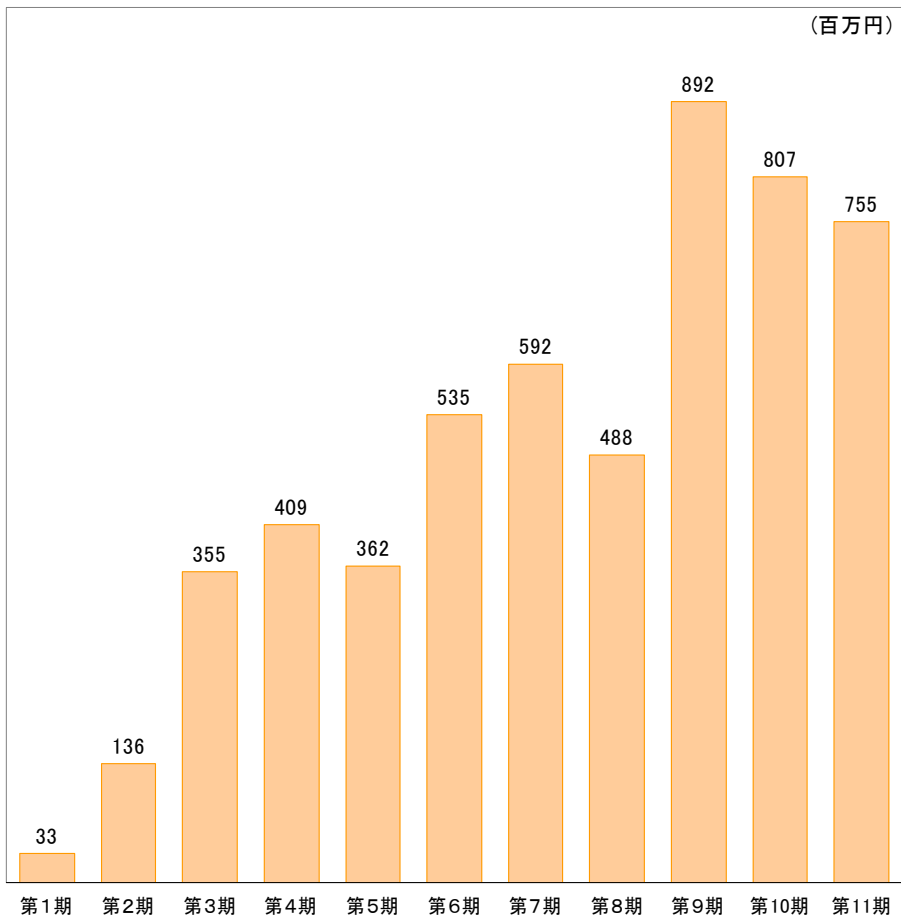
公募割れ比率 : 新規上場企業のうち、初値が公募価格を下回った企業の比率

2.1.FVC10年の歩み(1)

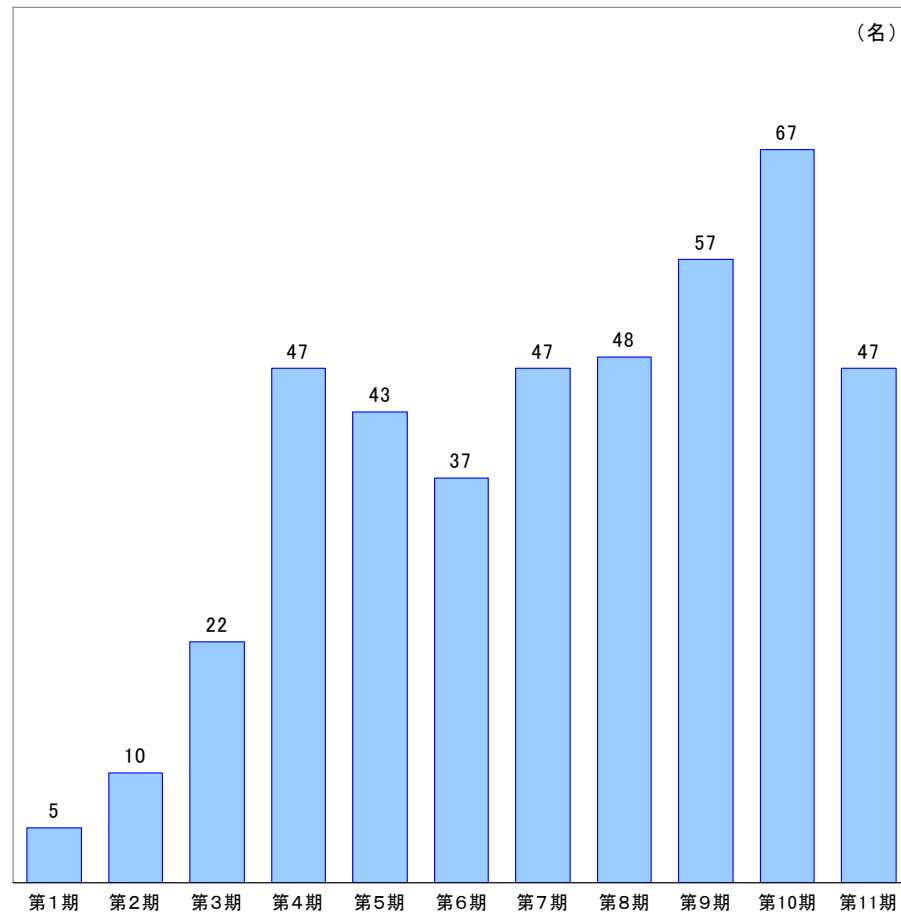
売上高は増減しながらではあるが、上昇傾向

従業員数は創業来2度目の減少局面

①売上高 推移



②従業員数 推移

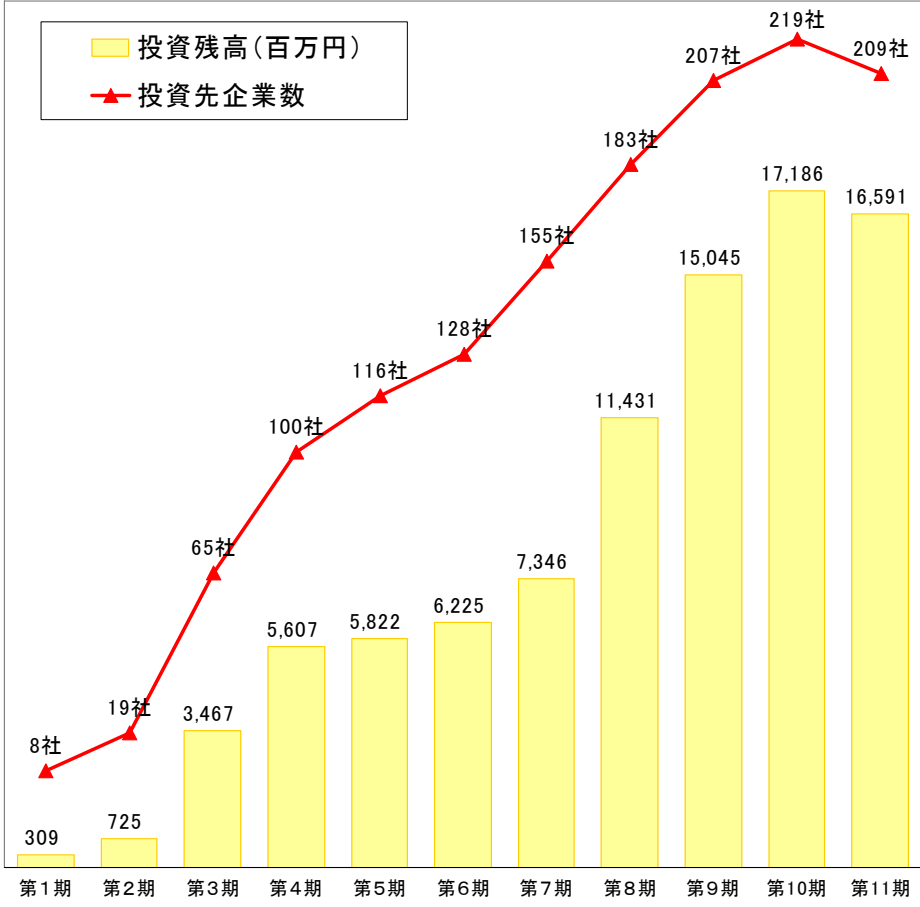


2.2.FVC10年の歩み(2)

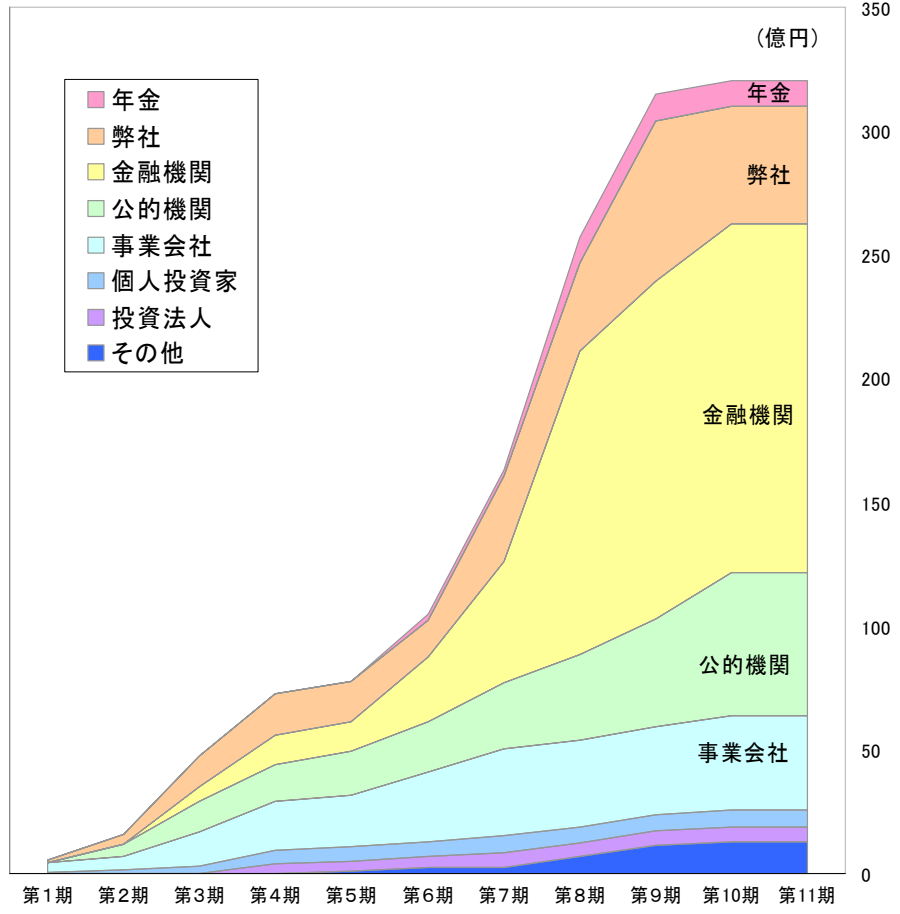
投資残高は創業以来初の減少

出資者構成は年金基金や金融機関といった機関投資家が中心に

③投資残高 推移



④出資者構成 推移



3.1.第11期決算(2009年3月期) (個別)

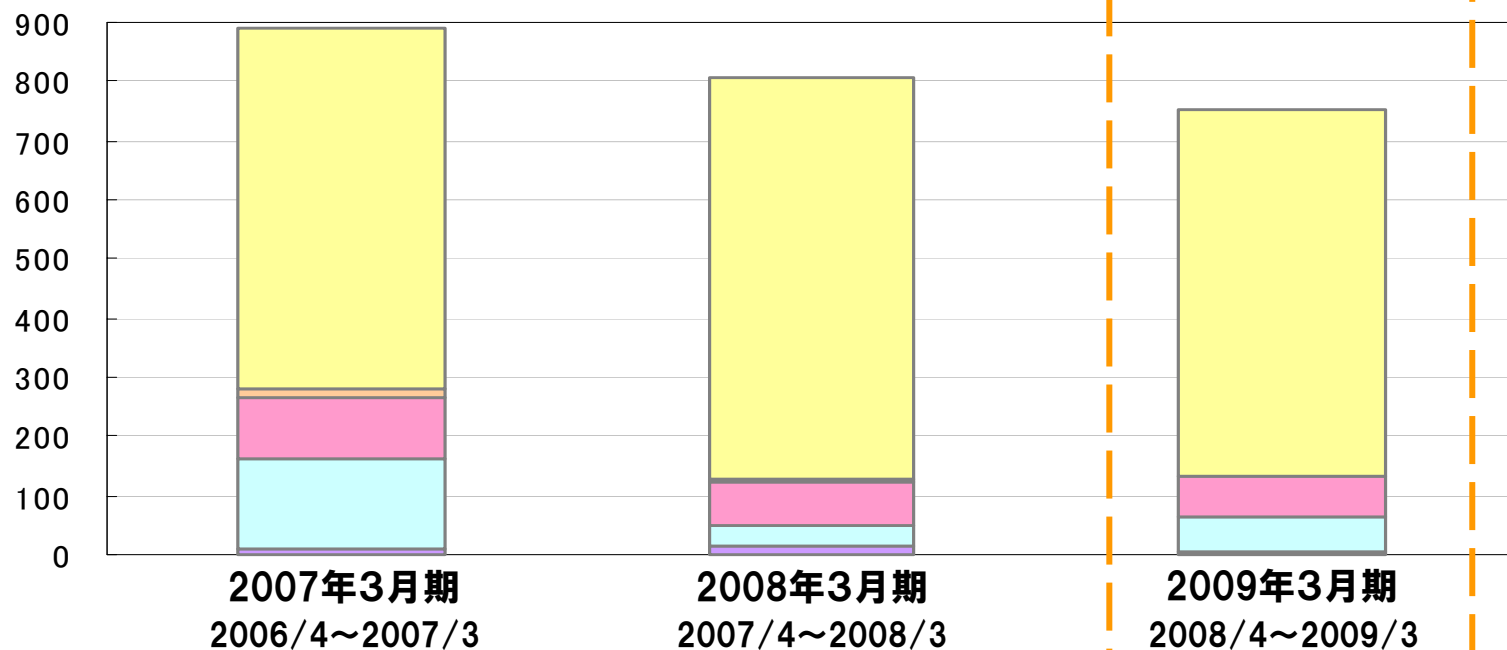
環境に応じ経費削減を進めたものの、未実現損失の拡大等により当期赤字は821百万円に拡大

	第9期 2007年3月期 2006/4~2007/3	第10期 2008年3月期 2007/4~2008/3	第11期 2009年3月期 2008/4~2009/3
売上高	892百万円	807百万円	755百万円
営業損失(△)	△49百万円	△736百万円	△738百万円
経常損失(△)	△66百万円	△788百万円	△789百万円
当期純損失(△)	△74百万円	△800百万円	△821百万円
純資産	2,448百万円	1,647百万円	871百万円
総資産	3,923百万円	4,049百万円	2,565百万円
自己資本比率	62.4%	40.7%	34.0%

3.2.売上高の内訳・前年比較（個別）

未上場売却の推進は一部進んだものの、ファンド管理報酬の減額が響き減収となった

(単位:百万円)



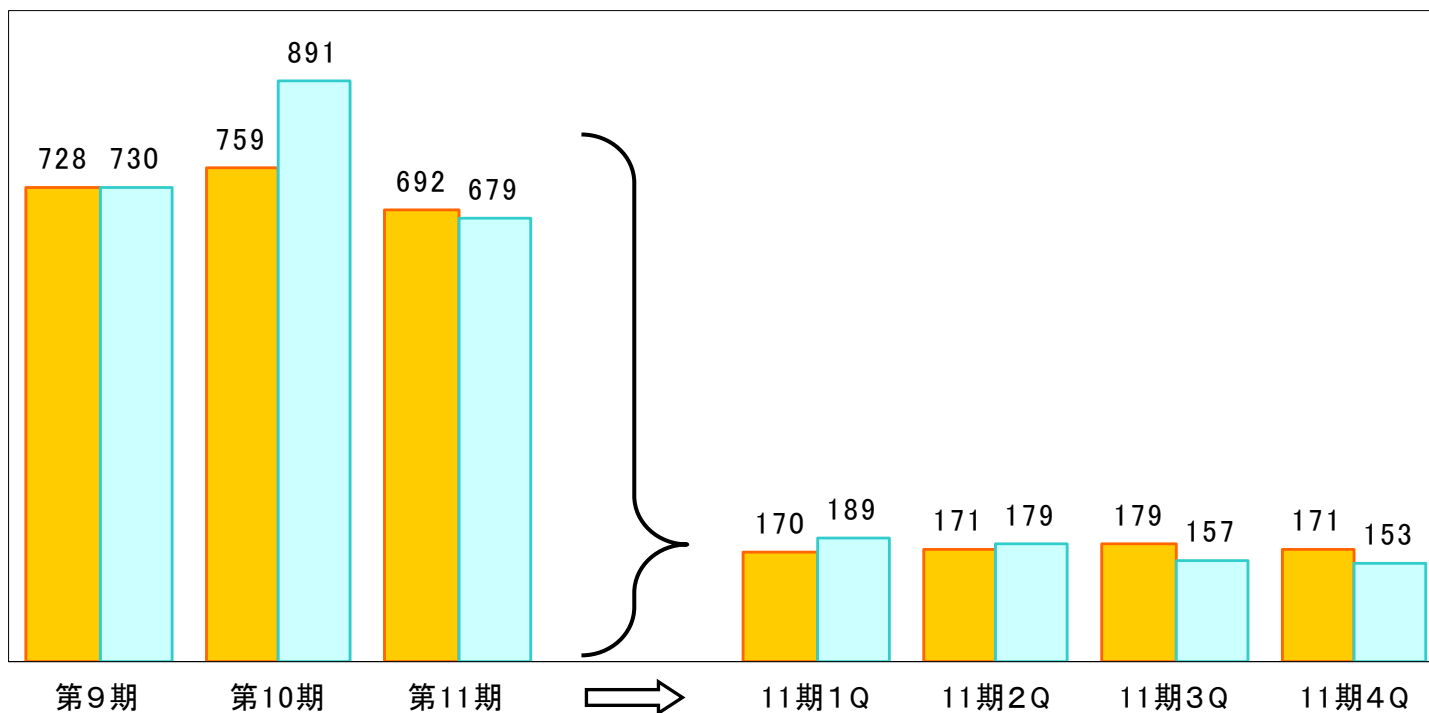
投資事業組合等管理業務	627	70.3%	682	84.6%	622	82.4%
(うち、成功報酬)	(18)	-	(2)	-	(0)	-
コンサルティング業務	101	11.3%	77	9.5%	69	9.3%
営業投資有価証券売上高	151	17.0%	33	4.1%	56	7.4%
その他	12	1.4%	14	1.8%	7	0.9%
計	892	100.0%	807	100.0%	755	100.0%

3.3.安定収入と販管費比較（個別）

経費削減を進めた結果、第11期第3四半期以降はファンド管理報酬等により販管費が賄える体制が整っている

■ 安定収入 □ 販管費(売上原価に計上する営業経費等を含む)

(単位:百万円)



差額

-2

-132

+13

-19

-8

+22

+18

3.4. 営業投資有価証券にかかる損益の詳細（個別）

引当金戻入により未上場売却でも黒字確保したが、新規の引当金繰入がかさみ投資損益は641百万円の赤字

（単位：千円）

	上場 有価証券	未上場 有価証券	減損	投資損失引当金 新規繰入	合計
①営業投資有価証券 売却高 ※1	2,345	46,831	-	-	49,177
②売却原価	767	129,523	110,827	-	241,118
③売買損益 (①-②)	1,577	△ 82,691	△ 110,827	-	△ 191,941
④投資損失引当金 繰入額(△戻入額)	-	※2 △ 95,402	△ 81,563	626,100	449,135
会計上損益 (③-④)	1,577	12,711	△ 29,264	△ 626,100	△ 641,076

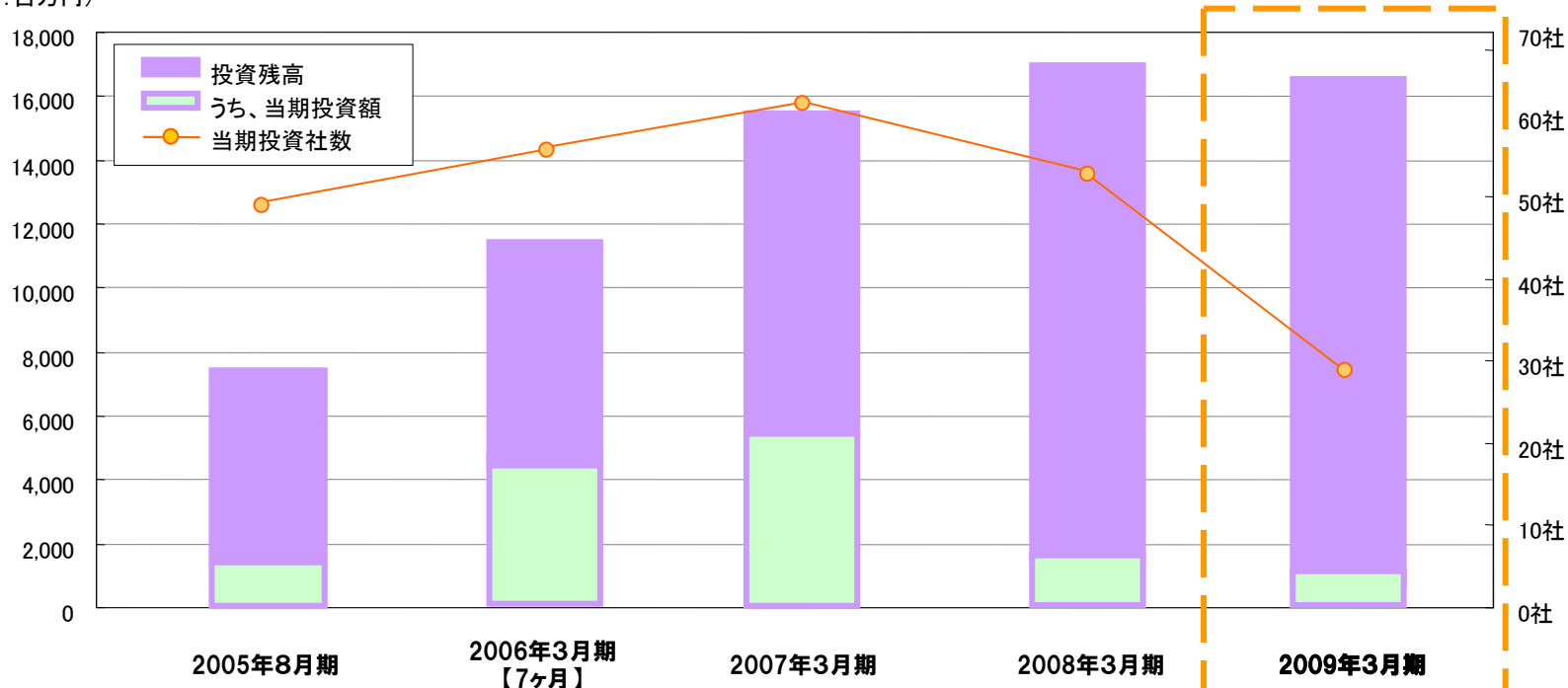
※1 損益計算書上の「営業投資有価証券売上高」には、投資先企業株式・債券からの配当・利子を含むため、本表の数値とは異なります。

※2 未上場有価証券の投資損失引当金繰入額(△戻入額)には、社債償還等による戻入額が含まれています。

4.1.投資金額・社数の推移

市場環境の悪化に応じてリスクに見合った投資を進めた結果、投資残高は初の減少に

(単位:百万円)



(単位:百万円)

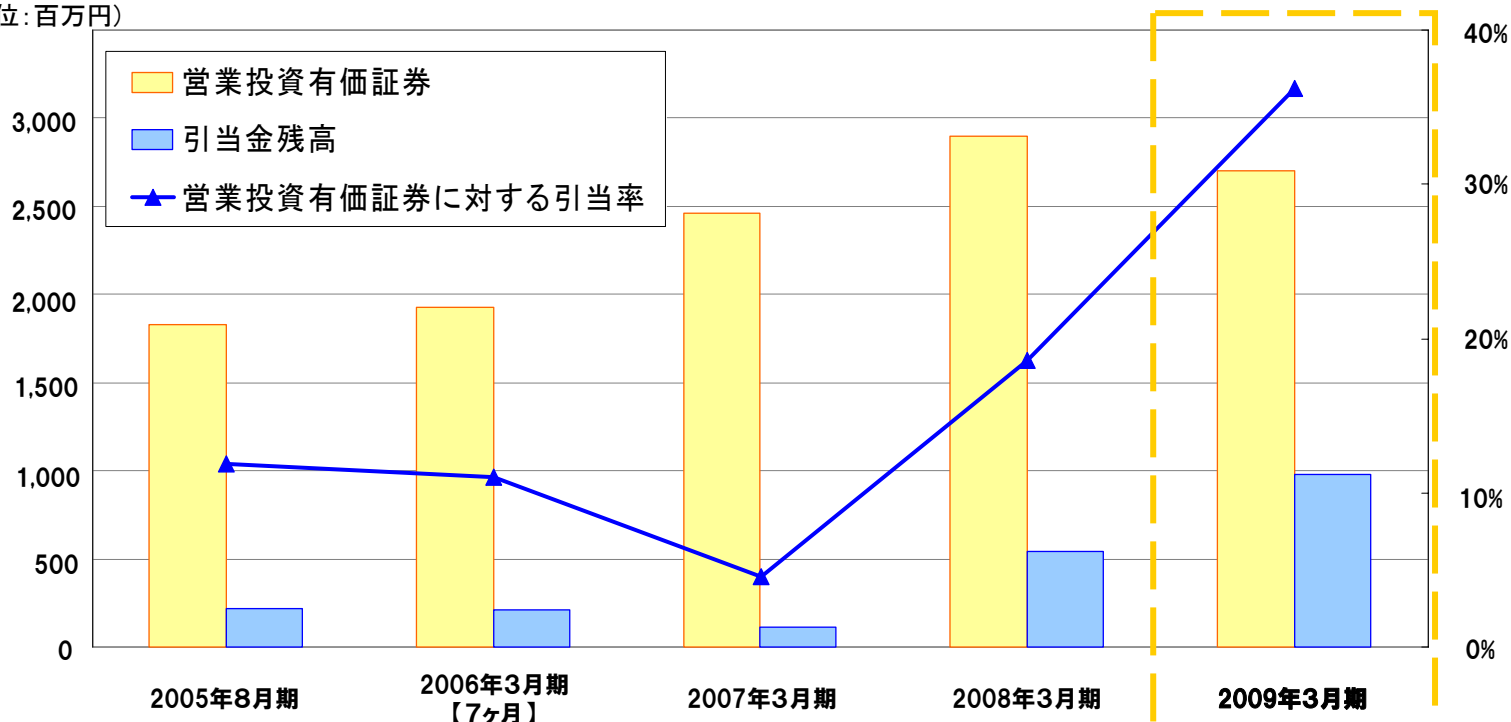
投資残高	7,346	11,471	15,045	17,186	16,591
うち、当期投資額	1,593	4,270	5,355	2,814	1,032
当期投資社数 [右軸]	49社	55社	62社	52社	29社
一社当たり投資金額*	32.5	77.6	86.3	54.1	35.6

※ 一社当たり投資金額 = 当期投資額 ÷ 当期投資社数




4.2. 営業投資有価証券と投資損失引当金の推移（個別）

大型ファンドのJカーブと景況悪化が重なり、引当水準は過去最高の36%に

(単位: 百万円)



(単位: 百万円)

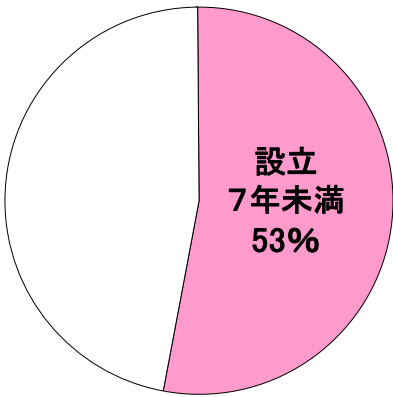
 営業投資有価証券	1,831	1,927	2,463	2,900	2,700
引当金繰入額 (△戻入額)	119	△4	△100	384	449
 引当金残高	217	212	112	540	977
 営業投資有価証券に 対する引当率	11.9%	11.0%	4.6%	18.6%	36.2%

4.3.ファンド投資残高ポートフォリオ（2009年3月末現在）

投資残高金額 16,591百万円 投資残高社数 209社

(金額ベース)

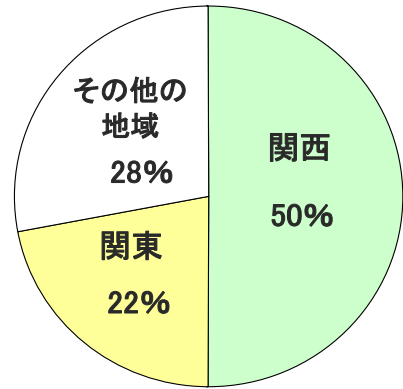
設立年別分類



※追加投資においても初回投資時点の設立経過年数で計算しております。

(金額ベース)

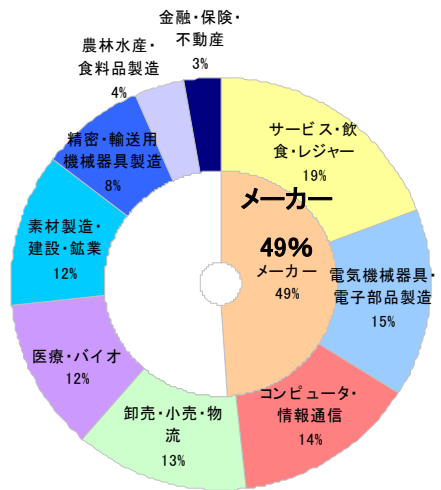
地域別分類



関西・・・大阪(19%)、京都(15%)、兵庫(8%)、その他(8%)
 関東・・・東京(18%)、その他(4%)
 その他の地域・・・東北(10%)、北陸(9%)、その他(9%)

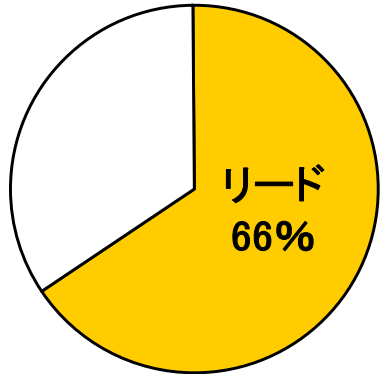
(金額ベース)

業種別分類



(社数ベース)

リードインベスターとして投資している案件



※初回投資時点を基準に計算しております。

28社に非常勤役員を派遣しています。

5.1.対処すべき課題

投資先企業価値の向上

当社の特徴である「アーリー」「地域」での投資活動が十分な成果を生んでいない状況
⇒当社経営資源を一部の投資先企業に集中投入する投資育成体制

経営の安定化

投資事業組合の管理報酬に代表される安定的収入により、経常支出を賄う体制の維持
⇒売却ルート強化、収益軸の補強、自己資本の拡充により、財務体質をさらに強化

KTICとの提携

当社と理念を共有するKTICとの連携により、上記課題への取り組みを一層強化

※KTIC(Korea Technology Investment Corp.):韓国を代表するベンチャーキャピタル。2009年5月21日付で業務提携を締結。

【参考】連結貸借対照表推移（主要項目抜粋）

保有投資有価証券の未実現損失拡大により、株主資本が853百万円減少

（単位：百万円）

	第10期 2008年3月期	第11期 2009年3月期	増減額	
流動資産	20,015	15,114	△4,901	
現金及び預金	5,903	4,773	△1,130	主としてファンド組み入れの進捗(当期1,032百万円)により減少
営業投資有価証券	17,186	16,591	△594	売却(同710百万円)、減損(同774百万円)の影響が新規投資を上回ったため減少
投資損失引当金	△3,110	△6,279	△3,169	2005年に設立した大型ファンドがJカーブの底を迎えていることに加え、景況悪化も重なり、投資損失引当金を大幅に積み増したため減少
その他	36	29	△7	
固定資産	214	156	△58	事務所の統廃合等により減少
流動負債	2,532	660	△1,871	本体で短期借入→長期借入への契約形態の変更を行った影響
固定負債	177	1,303	1,125	同上
純資産	17,520	13,306	△4,213	
株主資本、評価・換算差額等	1,727	874	△853	増資により49百万円を新規に調達したものの、当期損失の影響から株主資本は縮小
少数株主持分	15,792	12,431	△3,360	主として投資損失引当金の増加、減損の拡大により、ファンド出資者持分が目減りしたため減少
総資産	20,230	15,270	△4,959	

【参考】連結損益計算書推移（主要項目抜粋）

増収にはなったものの、未実現損失の拡大によって当期赤字は899百万円に拡大

(単位:百万円)

	第10期 2008年3月期	第11期 2009年3月期	増減額	
売上高	376	420	44	
投資事業組合等管理収入	—	—	—	個別決算での主要売上であるファンドからの管理報酬・成功報酬は、連結決算では内部取引となるため相殺
営業投資有価証券売上高	281	344	62	未上場株式の売却推進により増加
その他	94	75	△19	景況悪化により周辺業務の売上高が減少
売上原価	3,727	5,069	1,342	
営業投資有価証券売上原価	629	1,484	855	売却の増加(421百万円)、減損の拡大(434百万円)により増加 なお売却した有価証券は、予め投資損失引当金を積み上げていたものがほとんどであり、投資損失引当金の戻入と両建てで計上している
投資損失引当金繰入額	2,404	3,181	776	上記の投資損失引当金の戻入を上回る新規繰入を行ったため増加
その他の売上原価	692	403	△289	営業関連経費(営業部門の人件費含む)の削減により大幅減少
売上総損失(△)	△3,351	△4,649	△1,298	景況悪化に伴う運用損失の拡大により減益
販売費及び一般管理費	366	292	△74	経費削減の影響により減少
営業損失(△)	△3,717	△4,942	△1,224	
経常損失(△)	△3,769	△4,983	△1,214	
税引前当期純損失(△)	△3,769	△5,003	△1,234	
少数株主損失(△)	△3,104	△4,117	△1,012	連結しているファンドに帰属する損益のうち、当社以外の外部出資者持分に係る損益を控除するもの
当期純損失(△)	△676	△899	△222	

【参考】本資料における記載数値について

当社では連結での決算を行っておりますが、当社の経営成績及び財務状態をよりの確に表すため、本資料では以降、基本的に従来どおり個別での財務数値を記載しております。

【連結の対象となる投資事業組合】

連結子会社数 : 31組合
出資金総額 : 32,296百万円
(うち、外部出資者の持分 27,552百万円)

【個別決算と連結決算の主な相違点】

投資事業組合を連結することにより外部出資者の持分が連結損益計算書、連結貸借対照表に含まれます。

○連結貸借対照表

- ・自己資本比率が低下します。外部出資者の持分が「総資産」に含まれるためです。

○連結損益計算書

- ・外部出資者の持分が売上や売上原価に含まれるため、損益にも外部出資者の持分が含まれます。外部出資者の持分である損益は、最終的に「少数株主利益」又は「少数株主損失」として控除されます。
- ・投資事業組合等管理収入が内部取引とみなされ、売上に計上されなくなります。

【参考】 会社概要 (2009年3月末現在)

- 会社名 : フューチャーベンチャーキャピタル株式会社 (FVC)
- 設立年月日 : 1998年9月11日
- 資本金 : 1,911百万円
- 発行済株式総数 : 34,507株
- 株式公開市場 : 大阪証券取引所ヘラクレス (8462)
- 所在地 : 京都府京都市中京区烏丸通錦小路上ル手洗水町659番地
烏丸中央ビル8階
- 従業員数 : 47名
- 事業内容 : 未公開企業投資業務、投資事業組合の企画・運営
コンサルティング業務など